(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-209237
(P2004-209237A)
(43)公開日　平成16年7月29日(2004.7.29)

(51)Int.Cl.[7]	F I			テーマコード（参考）
A45D 2/18	A45D	2/18		
A45D 6/04	A45D	6/04		
A45D 8/00	A45D	8/00	501A	

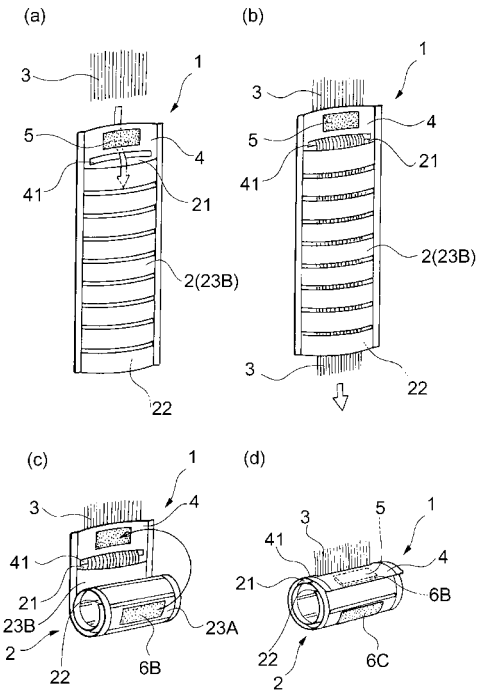
審査請求 未請求　請求項の数 17　ＯＬ　（全 16 頁）

(21)出願番号　特願2003-413727(P2003-413727)
(22)出願日　平成15年12月11日(2003.12.11)
(31)優先権主張番号　特願2002-364759(P2002-364759)
(32)優先日　平成14年12月17日(2002.12.17)
(33)優先権主張国　日本国(JP)

(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　100076532
弁理士　羽鳥　修
(74)代理人　100101292
弁理士　松嶋　善之
(72)発明者　東城　武彦
栃木県芳賀郡市貝町赤羽２６０６　花王株式会社研究所内
(72)発明者　小林　英男
栃木県芳賀郡市貝町赤羽２６０６　花王株式会社研究所内

(54)【発明の名称】毛髪保持具

(57)【要約】
【課題】　毛髪に、容易に所定の数種類の巻径で毛髪にカールを付与することのできる毛髪保持具を提供すること。
【解決手段】　一端の開口部２１から他端の開口部２２に向けて毛髪束３を挿通可能にシート２３Ａ、２３Ｂにより構成された扁平形状の筒状体２からなり、毛髪束３の挿通された前記筒状体２を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備しており、該巻き留め手段は、第１のメカニカルファスナー５と、該第１のメカニカルファスナー５に係合し得る第２のメカニカル係合部６Ａ、６Ｂ、６Ｃとからなり、前記第１のメカニカルファスナー５は、前記筒状体２の一方の面の端部近傍に設けられており、前記第２のメカニカル係合部６Ａ、６Ｂ、６Ｃは、該筒状体２の他方の面に該筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている。
【選択図】　図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、
毛髪束の挿通された前記筒状体を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備している毛髪保持具。
【請求項２】
前記筒状体は、形状記憶性を有している請求項１記載の毛髪保持具。
【請求項３】
前記巻き留め手段は、メカニカルファスナー又は粘着剤である請求項１又は２記載の毛髪保持具。
【請求項４】
一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、
毛髪束の挿通された前記筒状体を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備しており、該巻き留め手段は、第１のメカニカルファスナーと、該第１のメカニカルファスナーに係合し得る第２のメカニカル係合部とからなり、
前記第１のメカニカルファスナーは、前記筒状体の一方の面の端部近傍に設けられており、前記第２のメカニカル係合部は、該筒状体の他方の面に該筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている毛髪保持具。
【請求項５】
前記第２のメカニカル係合部は、前記第１のメカニカルファスナーに係合し得るメカニカルファスナーである請求項４記載の毛髪保持具。
【請求項６】
一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、
毛髪束の挿通された前記筒状体を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備しており、該巻き留め手段は、前記シートの表面から突出した係合凸部と、該係合凸部に係合し得る係合孔部とからなり、
前記係合凸部は、前記筒状体の両側縁部の端部近傍に設けられ、前記係合孔部は、該筒状体の両側縁部に該筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている毛髪保持具。
【請求項７】
前記係合凸部は、その高さ方向に略きのこ形状を有しており、該係合凸部の上部が前記係合孔部に圧入嵌合し得るようになしてある請求項６記載の毛髪保持具。
【請求項８】
一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、
前記筒状体の他端の端部を、前記シートの一部をめくり上げて形成された係合受部に係合することにより、毛髪束の挿通された前記筒状体を巻回状態に固定し得るようになしてあり、
前記係合受部は、前記筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている毛髪保持具。
【請求項９】
一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、
前記シートにおける前記他端の近傍の所定範囲のテーバーこわさが、該シートの他の範囲のテーバーこわさよりも大きくなっている毛髪保持具。
【請求項１０】
一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁

平形状の筒状体からなり、
毛髪束の挿通された前記筒状体を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備しており、該巻き留め手段は、板状の巻き留め片と、該巻き留め片に係合し得る前記筒状体の短手方向に長い切り欠きとからなり、
前記巻き留め片は、前記筒状体の一方の面における一端部近傍に、該一端部から他端部に向けて延出して設けられており、前記切り欠きは、前記筒状体の他方の面に、該筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている毛髪保持具。
【請求項１１】
前記筒状体の一方の面を形成するシート及び他方の面を形成するシートのテーバーこわさが何れも０．４ｍＮ・ｍ以上である請求項１０に記載の毛髪保持具。
【請求項１２】
前記筒状体の一方の面に、該筒状体の他端部から一端部に向けて延出する係合受部が設けられており、該筒状体の他端部を該係合受部に係合し得るようになしてある請求項１０又は１１記載の毛髪保持具。
【請求項１３】
前記筒状体には、その巻径に対応して目印が付されている請求項１～１２の何れかに記載の毛髪保持具。
【請求項１４】
前記筒状体の長手方向の両側縁部に該両側縁部から立設するフランジが設けられている請求項１～１３の何れかに記載の毛髪保持具。
【請求項１５】
前記筒状体の一方の面及び／又は他方の面を形成するシートに、該筒状体の短手方向に長い形状の複数個の空隙部が該筒状体の長手方向に離間して直列に形成されている請求項１～１４の何れかに記載の毛髪保持具。
【請求項１６】
前記筒状体の一方の面を形成するシートのテーバーこわさが０．４ｍＮ・ｍ以上である請求項１～１０及び１２～１５の何れかに記載の毛髪保持具。
【請求項１７】
前記筒状体は、形状記憶性を有している請求項４～１６の何れかに記載の毛髪保持具。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パーマ等により毛髪にカールを付与する場合に、毛髪束を所定の形状に巻回するときの補助具として用いられる毛髪保持具に関する。
【背景技術】
【０００２】
毛髪にカールを付与する方法としては、筒状のカーラーに毛髪を巻回する方法が一般的である。この方法を用いて毛髪に種々の巻径でカールを付与するためには、それらの巻径に対応する外径を有するカーラーを多数個用意する必要がある。
一方、特開平１０－１９２０３６号公報には、筒状の毛髪巻取り具が提案されている。このような筒状の毛髪巻取り具によれば、毛髪束が取り扱いが容易である。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかし、前記公報記載の毛髪巻取り具では、所定の数種類の巻径で毛髪にカールを付与することが困難であり、特に、一人で自分自身の毛髪（頭髪）にカールを付与し難い。
【０００４】
従って、本発明の目的は、毛髪に、容易に所定の数種類の巻径で毛髪にカールを付与することのできる毛髪保持具を提供することにある。
【０００５】

【特許文献１】特開平１０－１９２０３６号公報
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明は、一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、毛髪束の挿通された前記筒状体を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備している毛髪保持具（以下、第１発明ともいう）を提供することにより、上記目的を達成したものである。
【０００７】
また、本発明は、一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、毛髪束の挿通された前記筒状体を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備しており、該巻き留め手段は、第１のメカニカルファスナーと、該第１のメカニカルファスナーに係合し得る第２のメカニカル係合部とからなり、前記第１のメカニカルファスナーは、前記筒状体の一方の面の端部近傍に設けられており、前記第２のメカニカル係合部は、該筒状体の他方の面に該筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている毛髪保持具（以下、第２発明ともいう）を提供することにより、上記目的を達成したものである。
【０００８】
また、本発明は、一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、毛髪束の挿通された前記筒状体を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備しており、該巻き留め手段は、前記シートの表面から突出した係合凸部と、該係合凸部に係合し得る係合孔部とからなり、前記係合凸部は、前記筒状体の両側縁部の端部近傍に設けられ、前記係合孔部は、該筒状体の両側縁部に該筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている毛髪保持具（以下、第３発明ともいう）を提供することにより、上記目的を達成したものである。
【０００９】
また、本発明は、一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、前記筒状体の他端の端部を、前記シートの一部をめくり上げて形成された係合受部に係合することにより、毛髪束の挿通された前記筒状体を巻回状態に固定し得るようになしてあり、前記係合受部は、前記筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている毛髪保持具（以下、第４発明ともいう）を提供することにより、上記目的を達成したものである。
【００１０】
また、本発明は、一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、前記シートにおける前記他端の近傍の所定範囲のテーバーこわさが、該シートの他の範囲のテーバーこわさよりも大きくなっている毛髪保持具（以下、第５発明ともいう）を提供することにより、上記目的を達成したものである。
【００１１】
また、本発明は、一端の開口部から他端の開口部に向けて毛髪束を挿通可能にシートにより構成された扁平形状の筒状体からなり、毛髪束の挿通された前記筒状体を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備しており、該巻き留め手段は、板状の巻き留め片と、該巻き留め片に係合し得る前記筒状体の短手方向に長い切り欠きとからなり、前記巻き留め片は、前記筒状体の一方の面における一端部近傍に、該一端部から他端部に向けて延出して設けられており、前記切り欠きは、前記筒状体の他方の面に、該筒状体の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている毛髪保持具（以下、第６発明ともいう）を提供することにより、上記目的を達成したものである。
【発明の効果】
【００１２】
本発明の毛髪保持具によれば、毛髪に、容易に所定の数種類の巻径で毛髪にカールを付与することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１３】

以下、本発明の第１発明及び第２発明の毛髪保持具を、その好ましい一実施形態である第１実施形態について、図１及び図２を参照して説明する。

本実施形態の毛髪保持具１は、図１及び図２に示すように、一端の開口部２１から他端の開口部２２に向けて毛髪束３を挿通可能にシート２３Ａ、２３Ｂにより構成された扁平形状の筒状体２からなり、毛髪束３の挿通された前記筒状体２を複数種の巻径の巻回状態に固定し得る巻き留め手段を具備しており、該巻き留め手段は、第１のメカニカルファスナー５と、該第１のメカニカルファスナー５に係合し得る第２のメカニカル係合部（メカニカルファスナー）６Ａ、６Ｂ、６Ｃとからなり、前記第１のメカニカルファスナー５は、前記筒状体２の一方の面の端部近傍に設けられており、前記第２のメカニカル係合部（メカニカルファスナー）６Ａ、６Ｂ、６Ｃは、該筒状体２の他方の面に該筒状体２の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている。

【００１４】

本実施形態の毛髪保持具１について更に詳述する。

前記筒状体２は、図１に示すように、２枚の矩形状のシート２３Ａ、２３Ｂを、その長手方向に沿う側縁部２４、２４同士を接合させて形成されている。

筒状体２の大きさは、長さ５０～３５０ｍｍ、長径２０～１００ｍｍ、短径０～３０ｍｍであることが好ましく、毛髪の長さやくせ付けしたい場所、挿入する毛髪束の量に応じて適宜選択できる。

筒状体２を構成するシート２３Ａ，２３Ｂとしては、各種可撓性材料が用いられ、例えば、不織布（ポリエチレン不織布、ポリエチレンテレフタレート不織布等）、織布、多孔性又は非多孔性の樹脂フィルム（ポリエチレンフィルム、ポリエチレンテレフタレートフィルム等）、紙、高分子材料シート、ゴムシート、又はこれらの複合体等が挙げられる。本実施形態においては、毛髪処理剤に対して透過性を有するポリエチレンテレフタレート不織布が用いられている。

【００１５】

前記筒状体２は、形状記憶性、詳細には一方の面を形成するシート２３Ａを外側にして巻回した巻回形状の形状記憶性を有している。形状記憶性は、熱収縮率の異なるフィルムあるいは張力の違うフィルムを貼り合わせることによって、付与することができる。

また、シート２３Ａのテーバーこわさは、０．４ｍＮ・ｍ以上となっている。尚、前記「テーバーこわさ」は、ＪＩＳ　Ｐ８１２５に規定される「こわさ試験方法」により測定されるテーパーこわさである。

【００１６】

また、前記筒状体２の一方の面を形成するシート２３Ａ及び他方の面を形成するシート２３Ｂに、該筒状体２の短手方向に長い形状の複数個の空隙部２５が該筒状体２の長手方向に離間して直列に形成されている。このような空隙部２５が形成されていると、筒状体を巻回し易い。尚、筒状体２に空隙部２５を形成する方法について特に制限はなく、例えば、シートの形成後に切断、打ち抜き等で形成することができる。

【００１７】

筒状体２の一端の開口部２１の端部近傍は、図１に示すように、一方の面を形成するシート２３Ａが筒状体２の長手方向に延出した延設部４となっている。延設部４には、該筒状体２の一端の開口部２１と連通する挿通開口部４１が形成されている。

また、延設部４における長手方向端部と前記挿通開口部４１との間には、前記第１のメカニカルファスナー５が、図１（ｂ）に示すように、係合面を他方の面を形成するシート２３Ｂ側に向けて設けられている。

筒状体２における一方の面を形成するシート２３Ａにおける空隙部２５が設けられていない部分には、所定間隔を置いて、前記第２のメカニカルファスナー６Ａ、６Ｂ、６Ｃが設けられている。

【００１８】

前記第１のメカニカルファスナー５がオス材で、前記第２のメカニカルファスナー６Ａ、６Ｂ、６Ｃがメス材であり、第１のメカニカルファスナー５は、第２のメカニカルファスナー６Ａ、６Ｂ、６Ｃとが機械的に係合可能となっている。

また、前記筒状体２には、その巻径に対応して目印（図示せず）が付されている。詳述すると、筒状体２にはその幅方向に亘って直線が印刷されており、該直線は、第１のメカニカルファスナー５を第２のメカニカルファスナー６Ａ、６Ｂ、６Ｃにそれぞれ係合させたときに、延設部４の一端部が目印となる前記直線と略一致するような位置にそれぞれ付されている。

【００１９】

次に、本発明の毛髪保持具の第１実施形態の一使用態様として、パーマ処理により毛髪（頭髪）に直接カールを付与する場合について、図１～図３を参照しながら説明する。

先ず、毛髪束３の量や得ようとするカール形状に応じて、適当な長さ及び幅を有する筒状体２からなる毛髪保持具１を用い、図２（ａ）に示すように、筒状体２の一端の開口部２１を楕円形状に開口し、毛髪束３を一方のシート２３Ａの側から挿通開口部４１を介して該開口部２１の中へ挿入する。そして、図２（ｂ）に示すように、毛髪束３を、その先端が筒状体２の他端の開口部２２から少しはみ出るまで、筒状体２に挿通させる。

【００２０】

毛髪束３を筒状体２に挿通させた後、図２（ｃ）及び（ｄ）に示すように、筒状体２をその他端の開口部２２の側から、一方のシート２３Ａを外側にして巻回する。そして、第１のメカニカルファスナー５と第２のメカニカルファスナー６Ｂとを係合させる。

そのようにすると、筒状体２が所定の巻径の巻回状態で固定される。この際、延設部４の一端部が、筒状体２に付された、第２のメカニカルファスナー６Ｂに対応する目印（図示せず）と略一致する。尚、小さい巻径の巻回状態で固定したいときは、第１のメカニカルファスナー５と第２のメカニカルファスナー６Ｃとを係合させればよく、大きい巻径の巻回状態で固定したいときは、第１のメカニカルファスナー５と第２のメカニカルファスナー６Ａとを係合させればよい。

【００２１】

その後、筒状体２の外側からパーマ用の毛髪処理剤を毛髪束３に付与する。毛髪処理剤は、該毛髪処理剤に対して透過性を有するシート２３を介して、毛髪束３に付与される。所定時間後、筒状体２から毛髪束３を挿脱し、洗髪等して、パーマ処理を完了する。

尚、筒状体２の開口部２１から毛髪束３を挿入させる際に、必要に応じ、該開口部２１を真円状に開口した方が、毛髪束３をスムーズに挿入させ易い。また、毛髪束をフック可能なフック部が設けられた毛髪挿入具を用いると、毛髪束３を筒状体２に容易に挿通できる。また、必ずしも、毛髪束３の先端を筒状体２の他端の開口部２２からはみ出させる必要はない。

【００２２】

本実施形態の毛髪保持具１によれば、前述した手順で第１のメカニカルファスナー５を第２のメカニカルファスナー６Ａ、６Ｂ、６Ｃに係合することにより、毛髪束３を容易に所定の３種類の巻径の巻回状態に固定できる。

また、本実施形態の毛髪保持具１における筒状体２には、その巻径に対応して目印が付されているため、所望の巻径の巻回状態に固定されているかを容易に目視確認できる。また、筒状体の一方の面を形成するシート２３Ａのテーバーこわさが０．４ｍＮ・ｍ以上であるため、毛髪束３が挿通された筒状体２を綺麗な円形に巻回し易い。また、筒状体２が形状記憶性を有しているため、筒状体２に毛髪束３を挿入したときに、毛髪束３を抑え付けるような力が働き、毛髪保持具１のズレ落ちや位置ズレの発生が少ない。

【００２３】

次に、本発明の毛髪保持具の他の実施形態について説明する。これらの実施形態については、第１実施形態と異なる点についてのみ説明し、特に説明しない点については、第１実施形態に関する説明が適宜適用される。そして、他の実施形態の毛髪保持具においても、第１実施形態の毛髪保持具と同様に、毛髪束３を容易に所定の複数種の巻径の巻回状態

に固定できる。

【００２４】

図４（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態は、第１実施形態の一部の形態を変更した別の実施形態であり、該実施形態の毛髪保持具１においては、第１実施形態に比して延設部４が設けられておらず、第１のメカニカルファスナー５が筒状体２の他方の面を形成するシート２３Ｂにおける一端の開口部２１近傍に設けられている。それ以外の構成については、第１実施形態と同様である。

【００２５】

図４（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態の毛髪保持具１によれば、図４（ｃ）に示すように、第１実施形態と同様に毛髪束３を容易に所定の３種類の巻径の巻回状態に固定できる。更に、該実施形態の毛髪保持具１は、第１実施形態に比して延設部４が設けられていないため、図４（ｃ）に示すように、筒状体２を所定の巻径の巻回状態に固定した後更に巻回し、図４（ｄ）に示すように、筒状体２の一方のシート２３Ａの周面に毛髪束３を巻回することもできる。

【００２６】

図５（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態は、第１実施形態の一部の形態を変更した更に別の実施形態である。該実施形態の毛髪保持具１においては、第１実施形態に比して第１のメカニカルファスナー５Ａが筒状体２の一方の面を形成するシート２３Ａにおける他端部近傍に設けられており、第１のメカニカルファスナー５Ｂが該シート２３Ａにおける一端部近傍に設けられている。また、第１のメカニカルファスナー５Ａ，５Ｂに係合するメカニカル係合部６Ａ～６Ｃについては、筒状体２の他方の面を形成するシート２３Ｂを不織布で構成し、その長手方向に所定間隔を置いてその幅方向に亘って毛羽立ち加工を施して形成してある。メカニカル係合部６Ａ～６Ｃは、シート２３Ｂを毛羽立ち加工された不織布で構成し、メカニカル係合部以外の部分の毛羽立ちを抑える加工を施して形成してもよい。更に空隙部２５及び延設部４が設けられていない点も異なる。それ以外の構成については、第１実施形態と同様である。

【００２７】

図５（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態の毛髪保持具１によれば、図５（ｃ）に示すように、筒状体２に毛髪束３を挿通し、その状態で筒状体２を一方のシート２３Ａを外側にして巻回し、第１のメカニカルファスナー５Ａを第２のメカニカル係合部６Ａに係合させることにより、毛髪束３を容易に所定の巻径の巻回状態にすることができ、更に巻回して、第１のメカニカルファスナー５Ｂを第２のメカニカル係合部６Ｃに係合させることにより、該巻回状態を固定することができる。

また、第１のメカニカルファスナー５Ａを第２のメカニカル係合部６Ｂ又は６Ｃに係合させれば、異なる巻径の巻回状態にすることができる。この場合、第１のメカニカルファスナー５Ｂを第２のメカニカル係合部６Ａ～６Ｃに係合させることができないが、クリップ（図示せず）を用いて、巻回状態を固定することができる。

【００２８】

図５（ｄ）に示す実施形態は、図５（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態の一部の形態を変更した更に別の実施形態である。該実施形態の毛髪保持具１においては、図５（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態に比して、シート２３Ａの一端部近傍の第１のメカニカルファスナー５Ｂが設けられていない。それ以外の構成については、図５（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態と同様である。

図５（ｄ）に示す実施形態の毛髪保持具１によれば、巻回状態の固定にクリップ等が必須である点を除けば、図５（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態と同様に毛髪束３を容易に所定の３種類の巻径の巻回状態に固定できる。

尚、図５に示す実施形態においては、第２のメカニカル係合部の間隔や個数を適宜調整して設計することができる。

【００２９】

次に、本発明の第１発明及び第３発明の毛髪保持具を、その好ましい一実施形態である

第２実施形態について、図６を参照して説明する。
本実施形態の毛髪保持具１における巻き留め手段は、図６に示すように、前記シートの表面から突出した係合凸部５と、該係合凸部に係合し得る係合孔部６Ａ、６Ｂ、６Ｃとからなる。前記係合凸部５は、前記筒状体２の両側縁部２４の端部近傍に設けられ、前記係合孔部６Ａ、６Ｂ、６Ｃは、該筒状体２の両側縁部２４に該筒状体２の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている。
前記係合凸部５は、図６（ｃ）に示すように、その高さ方向に略きのこ形状を有しており、該係合凸部５の上部が前記係合孔部６に圧入嵌合し得るようになしてある。
【００３０】
図６に示す実施形態の毛髪保持具１によれば、図６（ｂ）に示すように、筒状体２に毛髪束３を挿通し、その状態で筒状体２を一方のシート２３Ａを外側にして巻回し、係合凸部５を係合孔部６Ｃに圧入嵌合させることにより、毛髪束３を容易に所定の巻径の巻回状態にすることができる。この際、係合凸部５における略きのこ形状の上部が係合孔部６Ｃに圧入嵌合されるので、別途クリップ等を用いなくても筒状体２の係合状態を固定できる。係合凸部５を係合孔部６Ａ又は６Ｂに係合させれば、異なる巻径の巻回状態にすることができる。
【００３１】
図７（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態は、第２実施形態の一部の形態を変更した別の実施形態であり、該実施形態の毛髪保持具１においては、第２実施形態に比して係合凸部５が筒状体２の両側縁部２４をコ字状に切断し、めくり上げて形成されてなる点が異なる。それ以外の構成については、第２実施形態と同様である。
【００３２】
図７（ａ）及び（ｂ）に示す実施形態においては、係合凸部５の形成が、図６に示す第２実施形態に比して容易である。一方、係合凸部５を係合孔部６に係合させただけでは両者を固定できないので、図７（ｂ）に示すように筒状体２を巻回して係合凸部５を係合孔部６Ｃに係合し、必要に応じ筒状体２を更に巻回し、図７（ｃ）に示すように筒状体２の巻回状態をクリップＣで固定する。
【００３３】
次に、本発明の第１発明及び第４発明の毛髪保持具を、その好ましい一実施形態である第３実施形態について、図８を参照して説明する。
本実施形態の毛髪保持具においては、図８（ａ）に示すように、前記筒状体２の他端の端部５を、前記シート２３Ｂの一部をめくり上げて形成された係合受部６Ａ、６Ｂに係合することにより、毛髪束３の挿通された前記筒状体２を巻回状態に固定し得るようになしてあり、前記係合受部６Ａ、６Ｂは、前記筒状体２の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている。
【００３４】
第３実施形態の毛髪保持具１によれば、図８（ｂ）に示すように、筒状体２に毛髪束３を挿通し、その状態で筒状体２を一方のシート２３Ａを外側にして巻回し、他端の端部５を係合受部６Ｂに係合させることにより、毛髪束３を容易に所定の巻径の巻回状態にすることができる。そして、図８（ｃ）に示すように、筒状体２を更に巻回し、その状態でクリップＣで巻回状態を固定する。他端の端部５を係合受部６Ａに係合させれば、小さい巻径の巻回状態にすることができる。
【００３５】
次に、本発明の第１発明及び第５発明の毛髪保持具を、その好ましい一実施形態である第４実施形態について、図９を参照して説明する。
本実施形態の毛髪保持具１は、図９に示すように、一端の開口部２１から他端の開口部２２に向けて毛髪束３を挿通可能にシート２３Ａ、２３Ｂにより構成された扁平形状の筒状体２からなり、前記筒状体２を形成するシート２３Ｂにおける前記他端の開口部２２の近傍の所定範囲２Ａのテーバーこわさが、該シート２３Ｂの他の範囲２Ｂのテーバーこわさよりも大きくなっている。所定範囲２Ａのテーバーこわさは、０．４Ｎ・ｍ以上である

ことが好ましく、他の範囲２Ｂのテーバーこわさは、０．４Ｎ・ｍ以下であることが好ましい。また、所定範囲２Ａの厚みは、０．０５～０．５ｍｍであることが好ましい。

【００３６】

他のシート２３Ｂは、テーバーこわさの異なる２種類のシートが長手方向に接合した接合シートからなる。該接合シートにおける所定範囲２Ａ（テーバーこわさの大きい範囲）には、筒状体２の短手方向に長い形状の複数個の空隙部２５が該筒状体２の長手方向に離間して直列に形成されている。

また、第４実施形態の毛髪保持具１においては、第１実施形態と同様に、筒状体２の一端の開口部２１の端部近傍は、一方の面を形成するシート２３Ａが筒状体２の長手方向に延出した延設部４となっている。延設部４は、筒状体２の一方の面を形成するシート２３Ａと一体的に形成されており、該延設部４には、該筒状体２の一端の開口部２１と連通する挿通開口部４１が形成されている。

【００３７】

第４実施形態の毛髪保持具１によれば、毛髪束３を一方のシート２３Ａの側から挿通開口部４１を介して該開口部２１の中へ挿入し、その状態で筒状体２を一方のシート２３Ａを外側にして巻回でき、その際、筒状体２をテーバーこわさの大きい前記所定範囲２Ａを基準として巻回することにより、毛髪束３を容易に所定の巻径の巻回状態にすることができる。そして、筒状体２を更に巻回し、その状態でクリップ（図示せず）で巻回状態を固定する。

【００３８】

次に、本発明の第１発明及び第６発明の毛髪保持具を、その好ましい一実施形態である第５実施形態について、図１０を参照して説明する。

本実施形態の毛髪保持具における巻き留め手段は、図１０に示すように、板状の巻き留め片５と、該巻き留め片５に係合し得る前記筒状体２の短手方向に長い切り欠き６，６・・・とからなる。前記巻き留め片５は、前記筒状体２の一方の面２３Ａにおける一端部近傍に、該一端部から他端部に向けて延出して設けられており、前記切り欠き６は、前記筒状体２の他方の面２３Ｂに、該筒状体２の長手方向に所定間隔で離間して複数個設けられている。

【００３９】

筒状体２は、図１０に示すように、２枚の矩形状のシート２３Ａ、２３Ｂを、その長手方向に沿う側縁部２４、２４同士を接合させて形成されている。

筒状体２の一方の面を形成するシート（一方のシート）２３Ａ及び他方の面を形成するシート（他方のシート）２３Ｂのテーバーこわさは、係合した時の強度を考慮すると、好ましくは０．４ｍＮ・ｍ以上、更に好ましくは２ｍＮ・ｍ以上である。

【００４０】

筒状体２の一端の開口部２１の端部近傍は、一方のシート２３Ａが筒状体２の長手方向に延出した延設部４となっている。一方のシート２３Ａにおける外面（他方のシート２３Ｂとは反対側の面）の一端部（一端の開口部２１側の端部）には、図１０（ａ）に示すように、巻き留め片５が該一端部から他端部（他端の開口部２２側の端部）に向けて延出して設けられている。

巻き留め片５は、基端から自由端に向けて徐々に幅が細くなる台形形状を有しており、前記切り欠き６への挿入性を向上させている。

本実施形態においては、巻き留め片５の基端は、一方のシート２３Ａの一端部最外方に位置しているが、筒状体２の巻き留めに支障のない範囲で、一端部から内方に位置していてもよい。

【００４１】

他方のシート２３Ｂには、前記切り欠き６が、筒状体２の長手方向に所定間隔で離間して複数個（本実施形態では８個）設けられている。

切り欠き６は、巻き留め片５を係合することができれば、矩形（帯形）、楕円形、波状帯形等の種々の形状とすることができるが、本実施形態では、巻き留め片５の挿入性、巻

き留め片５の外れ防止性、加工性等を考慮し、細長い矩形となっている。切り欠き６の間隔や個数は、所望の巻径等に応じて適宜変更できる。

【００４２】

一方のシート２３Ａに対する巻き留め片５の迎角は、巻き留め片５を、他方のシート２３Ｂに形成された切り欠き６に係合し、筒状体２の巻回状態を維持できる範囲で任意の角度とすることができるが、巻き留め片５の切り欠き６への挿入性及び係合後における巻き留め片５の切り欠き６からの外れ防止性を考慮すると、前記迎角は、好ましくは０～８０°、更に好ましくは５～３０°である。

【００４３】

筒状体２の両側縁部２４における長手方向他端近傍それぞれには、両側縁部２４から筒状体２の幅方向に延出する巻き締め片８１が設けられている。巻き締め片８１は、筒状体２とは別の部材を筒状体２の両側縁部２４に接合して形成されており、基端から自由端に向けて徐々に幅が細くなる台形形状を有している。巻き締め片８１は、筒状体２と一体的に（筒状体２を形成するシートと同じ部材で）形成してもよい。また、巻き締め片８１は、それを把持して筒状体２を巻き締めることができれば、種々の形状、大きさ、厚さ、配置とすることができる。

【００４４】

図１０に示す実施形態の毛髪保持具１によれば、図１１（ａ）及び（ｂ）に示すように、筒状体２に毛髪束３を挿通し、その状態で筒状体２を他方のシート２３Ｂを外側にして巻回する。巻き締め片８１を手（図示せず）で把持して筒状体２を巻回すると、容易に且つ必要に応じてきつく筒状体を巻回することができる。そして、図１１（ｃ）に示すように、筒状体２を所定の巻径に巻回した後、巻き留め片５を切り欠き６に係合させることにより、毛髪束３を容易に所定の巻径の巻回状態にすることができる。巻き留め片５を切り欠き６に係合させた後、筒状体２に対し、巻き付け力を除去すると、筒状体２が広がろうとするため、巻き留め片５の切り欠き６に対する係合が強くなる。巻き留め片５を異なる切り欠き６に係合させれば、異なる巻径の巻回状態にすることができる。

【００４５】

図１２（ａ）に示す実施形態は、第５実施形態の一部の形態を変更した更に別の実施形態である。該実施形態の毛髪保持具１においては、第５実施形態に比して、一方のシート２３Ａの外面における所定位置に、係合受部８２が設けられている。

係合受部８２は、一方のシート２３Ａとは別の部材を該シート２３Ａに接合してなり、該別の部材の一部が筒状体２の他端部から一端部に向けて仰ぐように立設している。

【００４６】

図１２（ａ）に示す実施形態においては、図１２（ｂ）に示すように、筒状体２における他端部側を巻回し、他端部（他端の開口部２２）を筒状体２の一方のシート２３Ａと係合受部８２との間に係合させることにより、毛髪束３を容易に所定の巻径の巻回状態にすることができる。即ち、本実施形態における係合受部８２は、図８に示す実施形態における係合受部６Ａ、６Ｂと、その形成方法が異なる以外は、同様の構成・機能を有するものである。尚、図１２（ｂ）においては、一方のシート２３Ａ及び他方のシート２３Ｂを簡略化して図示している。

そして、図１２（ａ）に示す実施形態によれば、第５実施形態と同様に、筒状体２を更に巻回し、巻き留め片５を切り欠き６に係合させることにより、毛髪束３を容易に所定の巻径の巻回状態にすることができる。

【００４７】

本発明の毛髪保持具は、前述した実施形態に制限されることなく、本発明の趣旨を逸脱しない限り、例えば以下に示すように適宜変更が可能である。

前記筒状体２の長手方向の両側縁部２４に、図１３（ａ）及び（ｂ）に示すように、該両側縁部２４から立設するフランジ７が設けられていると好ましい。フランジ７は、図１３（ａ）に示すように、筒状体２の一方の面を形成するシート２３Ａの長手方向に沿う両側縁部２４それぞれから、短手方向に一体的に突出して形成され、図１３（ｂ）に示すよ

うに、シート２３Ａ側に折り返されている。

【００４８】

フランジ７は、シート２３Ａと筒状体２の他方の面を形成するシート２３Ｂとの貼り合わせ部分で形成したり、筒状体２の一部をめくり上げて形成したり、筒状体２とは別体の部材を該筒状体２に接合して形成することもできる。また、フランジ７は、筒状体２の両側縁部２４の任意の箇所に設けることができ、両側縁部２４の全体に亘って設けてもよい。特に、図１３（ａ）及び（ｂ）に示すように、毛髪束が挿入される筒状体２の一端部に近い箇所に複数個設けられていることが好ましい。

フランジ７の設けられた毛髪保持具によれば、図１３（ｃ）に示すように、筒状体２の周面に毛髪束３を巻回する場合に、毛髪束３がその両側からフランジ７により保持される。そのため、筒状体２の周面に巻回された毛髪束３は、筒状体２の周面から脱落し難い。

【００４９】

巻き留め手段としては、メカニカルファスナーに代えて粘着剤を用いることができる。また、巻き留め手段をメカニカルファスナーで構成する場合には、第１のメカニカルファスナーがメス材で、第２のメカニカルファスナーがオス材でもよい。

第２発明におけるメカニカル係合部、第３発明における係合孔部、第４発明における係合受部、第６発明における切り欠きはそれぞれ所望の巻径の種類に応じて、３個又は４個以上設けることができる。

本発明の前記実施形態のそれぞれ異なる部分を、適宜変更したり組み合わせた形態とすることもできる。例えば、図１０に示す第５実施形態における巻き締め片を、第１発明及び第６発明以外の発明における筒状体に適宜設けることができる。

【００５０】

本発明の毛髪保持具においては、筒状体は、その一端が開口し且つその他端に閉口可能な手段を設けてあるものでもよい。筒状体は、その形成方法について特に制限はなく、シートを縫合、融着又は接着して形成したものでも、押出成形等により当初から筒状に形成したものでもよい。

尚、本発明の毛髪保持具における「筒状体」を構成するシート材の形状及びその表面状態は、上述の形態の筒状体を形成可能なものであれば良く、「扁平形状」という場合、シート材の表面は、凹凸面であってもよい。

【００５１】

また、本発明の毛髪保持具は、パーマ処理により毛髪にカールを付与する場合に限らず、毛髪束を巻回した後、ドライヤー等により熱処理したり、乾燥した毛髪を巻回状態で保持したり、濡れた状態の毛髪を巻回状態で保持し自然乾燥させたりして、毛髪にカールを付与する場合等にも適用することができる。尚、毛髪に市販の整髪料を付与した後に、前述の方法によってくせ付けしても良い。クリップの代わりに輪ゴム等を用いてもよい。

【図面の簡単な説明】

【００５２】

【図１】図１は、本発明の毛髪保持具の第１実施形態を示す斜視図で、（ａ）は第２のメカニカルファスナー側から見た図、（ｂ）は（ａ）の反対側から見た図である。

【図２】図２は、本発明の毛髪保持具の第１実施形態の一使用態様を示す図で、（ａ）、（ｂ）、（ｃ）及び（ｄ）は、それぞれ毛髪束の巻回手順を順次示す斜視図である。

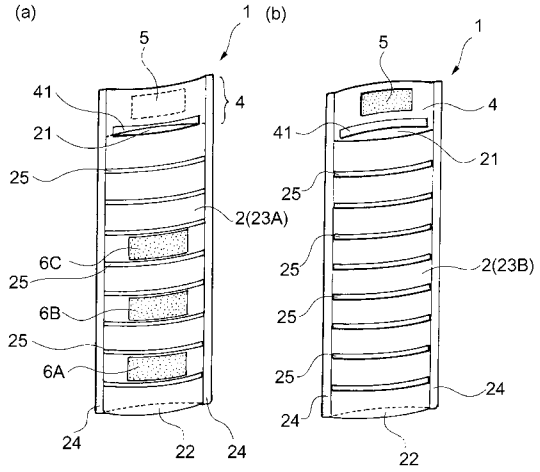
【図３】図３は、第１実施形態の毛髪保持具を用いて毛髪束にカールを付与している状態を示す斜視図である。

【図４】図４は、本発明の毛髪保持具の第１実施形態の一部を変更した別の実施形態を示す斜視図で、（ａ）は第２のメカニカルファスナー側から見た図、（ｂ）は（ａ）の反対側から見た図、（ｃ）は毛髪束を巻回した状態を示す図、（ｄ）は（ｃ）に示す状態から更に毛髪束を巻回した状態を示す図である。

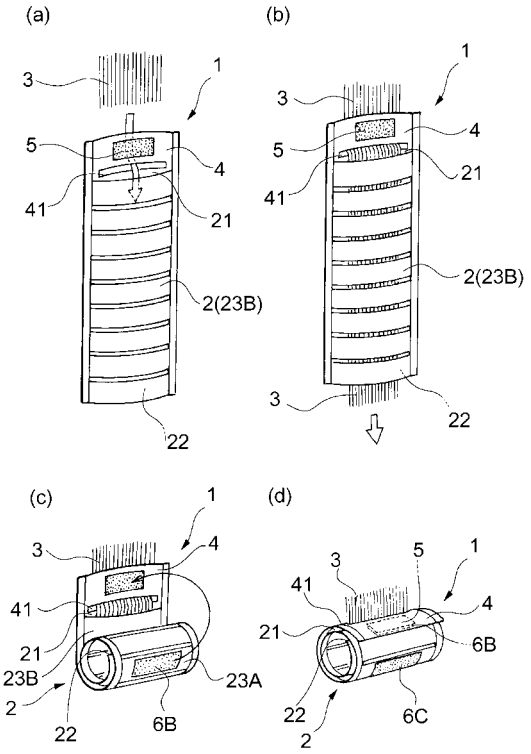
【図５】図５は、本発明の毛髪保持具の第１実施形態の一部を変更した更に別の実施形態を示す斜視図で、（ａ）は第１のメカニカルファスナー側から見た図、（ｂ）は（ａ）の反対側から見た図、（ｃ）は毛髪束を巻回した状態を示す図であり、（ｄ）は（ａ）及び

（ｂ）に示す実施形態の一部を更に変更した実施形態である。
【図６】図６は、本発明の毛髪保持具の第２実施形態を示す図で、（ａ）は係合凸部側から見た斜視図、（ｂ）は毛髪束を巻回した状態を示す斜視図、（ｃ）は係合凸部近傍の側面図である。
【図７】図７は、本発明の毛髪保持具の第２実施形態の一部を変更した別の実施形態を示す斜視図で、（ａ）は第１の係合凸部側から見た図、（ｂ）は毛髪束を巻回した状態を示す図、（ｃ）は（ｂ）に示す状態から更に毛髪束を巻回してクリップで固定した状態を示す図である。
【図８】図８は、本発明の毛髪保持具の第３実施形態を示す斜視図で、（ａ）は係合受部側から見た図、（ｂ）は毛髪束を巻回した状態を示す図、（ｃ）は（ｂ）に示す状態から更に毛髪束を巻回してクリップで固定した状態を示す図である。
【図９】図９は、本発明の毛髪保持具の第４実施形態を示す斜視図である。
【図１０】図１は、本発明の毛髪保持具の第５実施形態を示す斜視図で、（ａ）は巻き留め片側から見た図、（ｂ）は（ａ）の反対側から見た図である。
【図１１】図１１は、本発明の毛髪保持具の第５実施形態の一使用態様を示す図で、（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、それぞれ毛髪束の巻回手順を順次示す斜視図である。
【図１２】図１２は、本発明の毛髪保持具の第５実施形態の一部を変更した更に別の実施形態を示す図で、（ａ）は図１０（ａ）対応図、（ｂ）は筒状体の他端を係合受部に係合した状態を示す模式的側面図である。
【図１３】図１３は、本発明の毛髪保持具の実施形態の変形例を示す図で、（ａ）はフランジを展開した状態を示す斜視図、（ｂ）は（ａ）のＡ－Ａ断面図で、フランジを折り返した状態を示す図、（ｃ）は毛髪束を巻回した状態を示す斜視図である。
【符号の説明】
【００５３】
１　毛髪保持具
２　筒状体
２１、２２　開口部
２３Ａ，２３Ｂ　シート
２４　側縁部
２５　空隙部
３　毛髪束
４　延設部
４１　挿通開口部
５、５Ａ、５Ｂ　第１のメカニカルファスナー、係合凸部、他端の端部、巻き留め片
６Ａ、６Ｂ、６Ｃ　第２のメカニカル係合部、係合孔部、係合受部、切り欠き
７　フランジ
８１　巻き締め片
８２　係合受部
Ｃ　クリップ

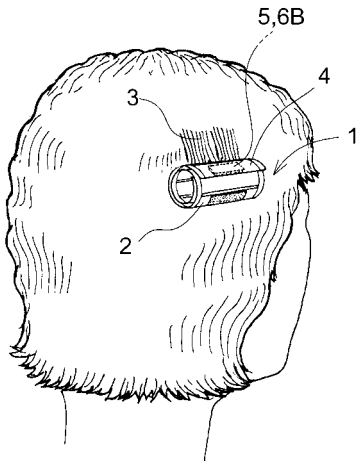
【図１】


(a)
(b)
1
5
41
21
25
4
2(23A)
6C
6B
6A
24
22
2(23B)

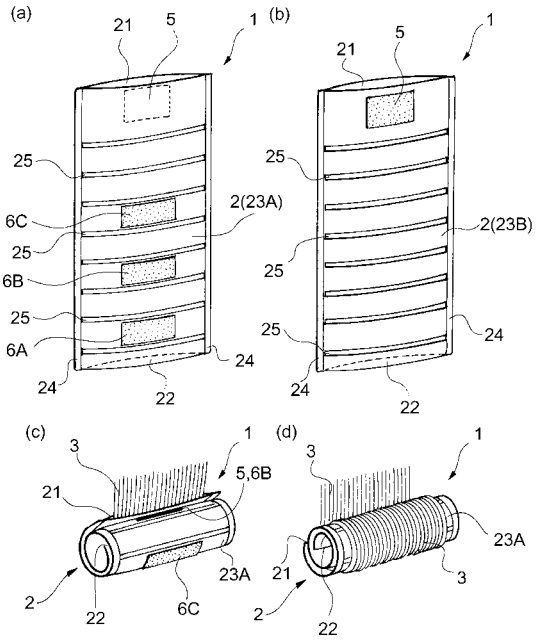
【図２】


(a)
(b)
(c)
(d)
1
3
5
41
21
4
2(23B)
22
23B
23A
2
6B
6C

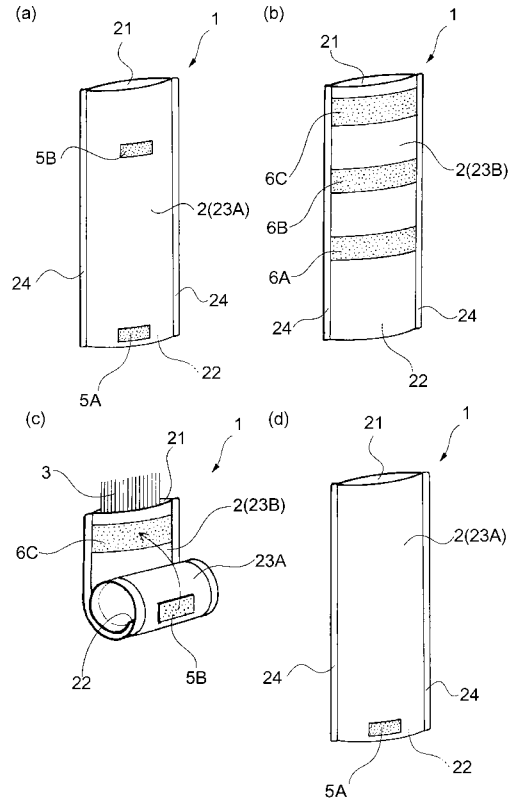
【図３】


5,6B
4
3
1
2

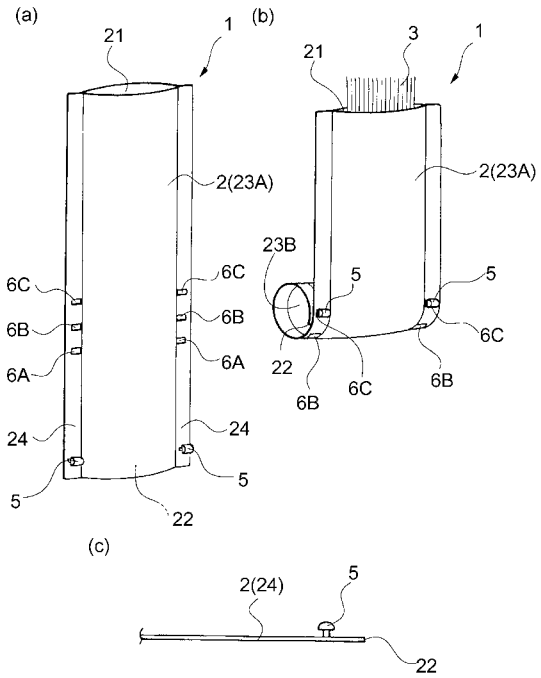
【図４】


(a)
(b)
(c)
(d)
1
21
5
25
6C
6B
6A
2(23A)
2(23B)
24
22
5,6B
23A
3
2

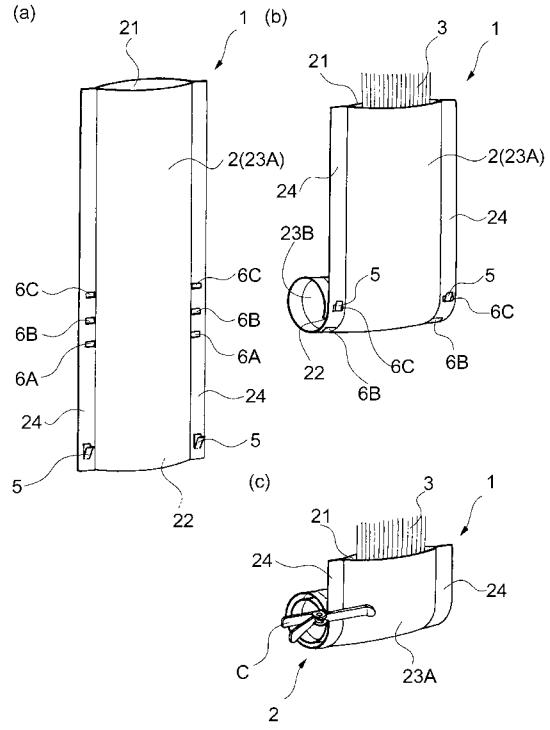
【図５】


(a)
(b)
(c)
(d)
1
21
3
5B
2(23A)
2(23B)
6C
6B
6A
24
22
5A
23A
5

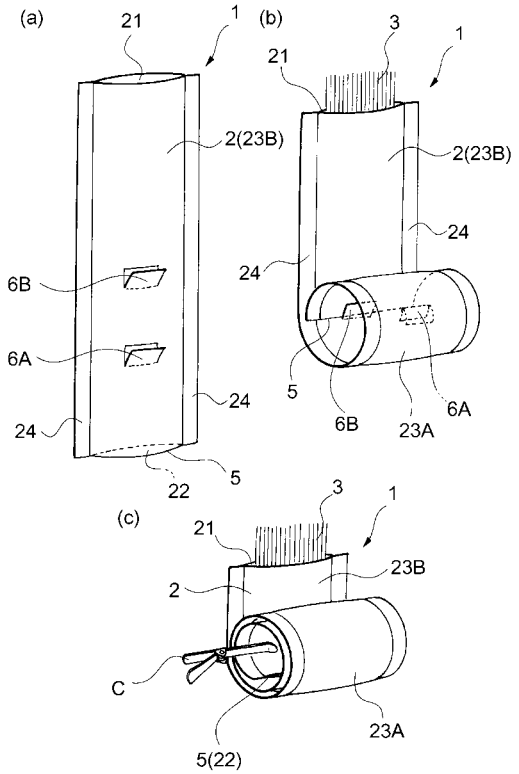
【図６】


(a)
(b)
(c)
1
21
3
2(23A)
6C
6B
6A
24
5
22
23B
2(24)

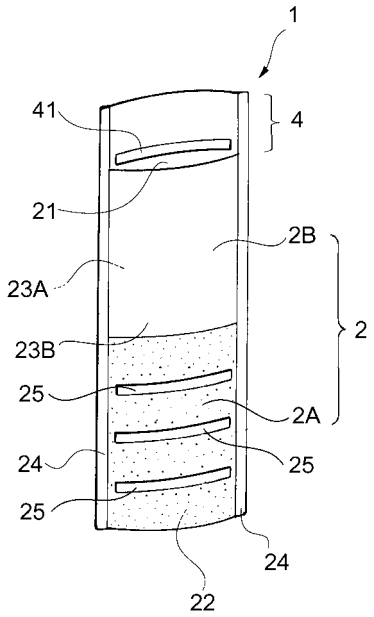
【図７】


(a)
(b)
(c)
1
21
3
2(23A)
6C
6B
6A
24
5
22
23B
C
2
23A

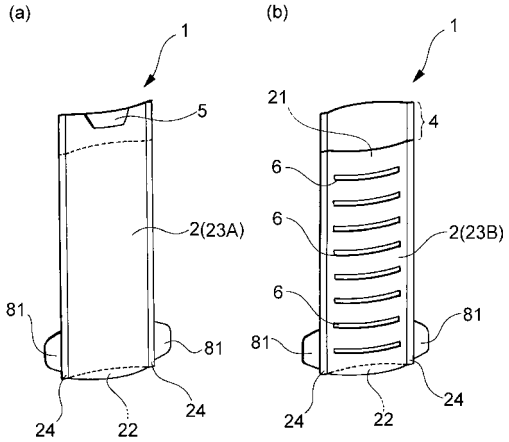
【図８】


(a)
(b)
(c)
1
21
3
2(23B)
6B
6A
24
5
22
23B
C
2
23A
5(22)

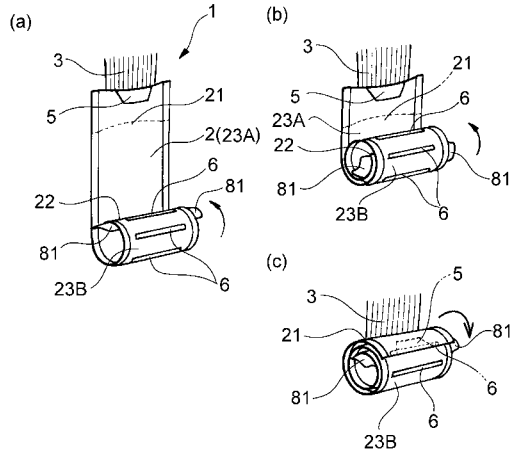
【図９】



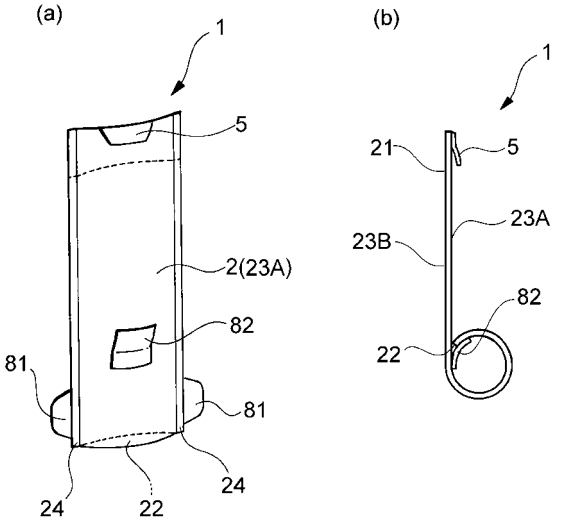
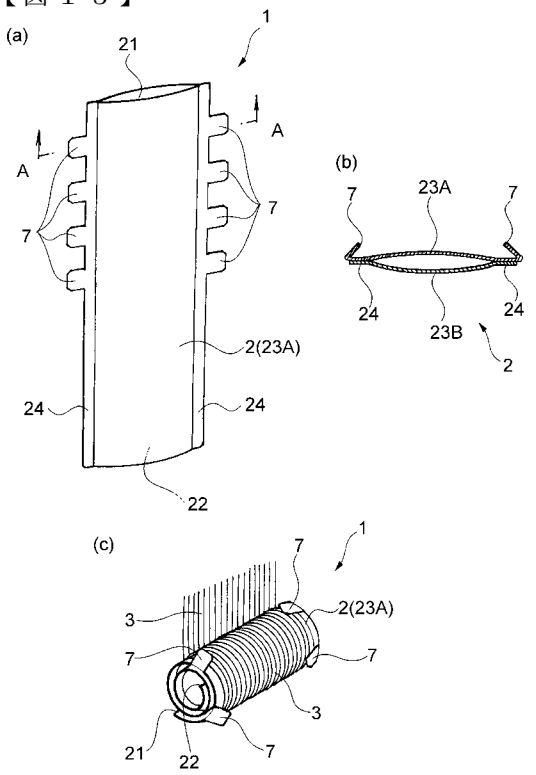
【図１０】



【図１１】



【図１２】



【図１３】